

資料2

長久手市文化の家自主事業報告書

(令和4年6月以降実施分)

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 中学校であーと（長久手中学校）

日時 2022年6月2日（木）、8日（水）

場所 長久手市立長久手中学校

事業の種類 普及・啓発事業 配信 なし

出演者 福本真琴（チェロ）、福本真弓（ピアノ）

公演内容 ジュリー・オー（マーク・サマー）、ユーモレスク（ドヴォルザーク）、チェロとピアノのためのソナタ第3番第1楽章（ベートーヴェン）、華麗なる序奏とポロネーズ（ショパン）

入場者数 146 （長久手中学校1年生5クラス対象）

支出	委託費	80,000円
	計	80,000円

収入	（補助金）令和4年度劇場・音楽堂等機能強化推進事業（普及啓発事業）	金額未定
	計	0円

回収率 0.0%

アンケート結果

チェロのみでも演奏できると知り、こんなに綺麗な音が出るとは思わなかった。新しい楽器の魅力を知れてよかった。（生徒）

二人とも長久手中学校の卒業生でびっくりした。（生徒）

生演奏はすごくいい。（生徒）

曲を体でも表現しているということに気づいた。（生徒）

音楽には、どんな人でも感動させる力がある。（生徒）

チェロがデカかった。（生徒）

チェロを触り、響きを感じたようで、『すごいことしちゃった!』という興奮した顔をしていたのが印象的だった。（教員・1年生学級担任）


担当者コメント

であーとは、文化の家に関わりのあるアーティストたちが、市内中学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。長久手中学校公演には、昨年度に引き続き、福本真琴、真弓姉妹が出演。昨年度よりも本格的な楽曲が多いプログラムとなった。MCに子どもに身近なキーワード（校歌、先生の名前等）を多く入れ、子どもたちが楽器に触れる場面を作る等、演奏者をより身近に感じ、理解を深める工夫がされていた。


感染症対策及び、出演者のキャラクターを考慮した結果、1クラスずつ音楽室での実施となったが、2日間開催となり、演奏者に負担が大きい状況である。来年度以降、実施方法について再検討したい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	順風男女10周年4都市ツアー公演 おてんこうてんおてんてん		
日時	令和4年6月11日（土）	14時00分 開演	18時00分 開演
	令和4年6月12日（日）	11時00分 開演	15時00分 開演
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	なし
出演者	順風男女（刃山 剛志、足立 信彦、平野 賢佑、伊芸 勇馬、今井 英里、岸波 紗世子、伊藤 摩美）		
公演内容	1. マスク＝バイアス、2. 謙虚な大将、3. 大陸の情熱、4. 医者と患者、5. グットタイミングビール、6. ヤリラフィー、7. 伝説を作る音響監督の風格、8. 超生命体、9. 昨日の送別会、10. ありがとう、11. 誤解と理解		
入場者数	160	席設定 160	入場率 100.0%
チケット料金	（前売）フレンズ・一般3,000円、学生1,000円 （当日）フレンズ・一般3,500円、学生1,000円		
支出	提携事業のため支出なし		
		計	0円
収入	提携事業のため収入なし		
		計	0円
回収率			
アンケート結果	<p>東京公演の初日を拝見して、すごくおもしろかったので愛知に見に来た。もう愛知には来ないと思ってましたので、とても喜んでいる。面白いだけではなく、温かさもあるので、また来て欲しい。</p> <p>コントはうまい役者がやると本当に面白い。</p> <p>※提携先のアンケートのため、属性不明</p>		
担当者コメント	<p>長久手市出身の伊藤摩美率いるコント劇団順風男女の4都市ツアー公演。光のホールの新たな使い方として、小劇場の様な形で演劇公演を実施した。コロナ感染対策として定員の半数の40名としたが、ファンも多く各回満席となる動員であった。11本のコントは常に会場を爆笑の渦に巻き込み、久しぶりに大笑いしたとコメントを残すお客さんも多かった。照明に関して、家庭用のコンセントしかなく、電気容量も少ないため、演劇公演を行う際は事前の確認が必要であると分かった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	長久手市男女共同参画事業2022 「歌と時代と男と女～曲が時代を作ったか、時代が曲を作ったか」		
日時	令和4年6月23日（木）	14時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	小室敬幸（講師） 弓立翔哉、小田智之（音楽系創造スタッフ） ヒラウチマイ（ヴォーカル） 長津結一郎（プレ公演講師）		
公演内容	レクチャー&コンサート（レクチャーの合間に曲を挟む） 前半：カチューシャの唄、東京ブギウギ、お祭りマンボ、ブルーライト・ヨコハマ、赤いスイートピー、プレイバックPart II、関白宣言（昭和の歌謡曲） 後半：ラブストーリーは突然に、夏が来る、Can you celebrate、Automatic、恋、夜に駆ける（平成、令和のポップス） ※開演前にプレ公演あり。プレ公演の内容は男女の社会での立場が時代の流れとともに変化してきたこと、現代を目指す社会のこと、音楽や歌詞を通すことで世代間の相互理解が生まれることなどについての講演		
入場者数	213	席設定	292 入場率 71.5%
チケット料金	無料		
支 出	委託費	60,000円	
	演奏報酬	25,000円	
	印刷製本費	18,539円	
	音楽著作権料	2,750円	
	計	106,289円	
収 入	入場料	0円	
	計	0円	
回 収 率	0.0%		
アンケート結果	音楽を通して、男女参画の思い伝わってきた。企画良かった。（市外、70代女性） 男女共同参画を音楽と結びつける発想がお見事だった。（市内、50代女性） 創造スタッフが楽しそうに魅力的な演奏をして下さり、楽しかったし感動した。（市内、30代男性）		
担当者コメント	男女共同参画週間の啓発事業として開催したが、単なる啓発公演ではなく、音楽を楽しみながら自然と男女のことについて考えるような企画とした。男女の考え方に関するプレ公演、歌詞を扱った小室氏による講演、実際の歌の演奏という3本立てとしたが、非常に好評で、次回の開催も期待される内容となった。今回はたつせがある課とも連携して開催したが、今後はより密に連携をとりながら、共同での企画をしていきたい。		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 中学校であーと（北中学校）

日時 令和4年6月28日（火）

場所 長久手市立北中学校

事業の種類 普及・啓発事業 配信 なし

出演者 小松大（フィドル）、長尾晃司（ギター）

公演内容

- 1.Sonny Brogan's - Both Meat & drink - Man on the House
2. Ennistymon - Donnybrook fair
3. Bluemont Waltz - Sweetness of Mary
4. First Pint(Jig) - Lady Montgomery - Matt Peoples- Mountain Top
5. Letter to Barcelona - Waltz
6. Polka: Julia Clifford D - Four Shaves/ - John Bronsna's

入場者数 230 （中学1年生8クラス）

支 出	委託費	120,000円
	計	120,000円

収 入	文化庁助成金	金額未定
	計	0円

回収率 0.0%

アンケート結果

足踏みをしてリズムをとっていることが印象に残った。（生徒）

バイオリンは上品な感じだと思っていたけれど、リズムカルでノリノリだった。（生徒）

「拍手してね」や「話しながら聞いてもいいよ」という事を言ってくれて、リラックスしながら楽しく音楽を聞くことができた。（生徒）

ケルト音楽が大好きだから、聴けてとても嬉しかった。（生徒）

最初は、楽しくなさそうと思っていたけれど、とても嬉しかった。（生徒）

担当者コメント

であーとは、文化の家に関わりのあるアーティストたちが市内中学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。北中学校公演には、愛知県立芸術大学出身のフィドル奏者、小松大氏が率いるデュオが登場。アイリッシュ音楽を題材に、演奏者自身の人生と音楽の関わり合いを子どもたちに語りかけた。子どもたちは、日常生活の中にアイリッシュ音楽があふれていることに気づき、様々な人生観に触れることができた。昼休みには、アトリウム（中庭）でミニコンサートを行い、全校生徒が演奏を楽しんだ。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	JAPAN LIVE YELL project in CHUBU 劇団うりんこ ベイビーシアター「まるまる」		
日時	令和4年7月6日（水）	11時00分開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	なし
出演者	川原美奈子、朝比奈緑、浅野加織		
公演内容	ベイビーシアター「まるまる」		
入場者数	10	席設定	10 入場率 100.0%
チケット料金	（前売）親子（子ども1名+保護者1名）1,000、追加大人1,000円 （当日）親子（子ども1名+保護者1名）1,000、追加大人1,000円		
支出	提携事業のため支出なし		
		チラシ印刷費	6,495円
		計	6,495円
収入	提携事業のため収入なし		
		会場運営費	100,000円
		計	100,000円
回収率	1539.6%		

アンケート結果
 長男が12月に参加。今回次男にも見せたいと思い、参加した。長男とは違う表情だったため、楽しかった。今後、兄弟二人が参加できる公演を楽しみにしている。（市内、30代女性）
 場所見知りする時期で泣いてしまった。生演奏も良く、もっと長くやってほしかった。（市内、40代女性）
 子どもが楽しそうで、自由にさせてもらえる雰囲気がとても居心地良かった。最初は固まっていたが、少しずつなじんでる様子を見るととても良かった。（市外、30代女性）

担当者コメント
 この公演はJAPANLIVEYELLprojectの中部地方版の企画として上演した。「まるまる」では、子どもの主体的で自由な動きを大切に、上演中も自然のままに、声を出しても、動いても、触っても止めずに、子どもが参加することで成立する「体験の芸術」となっており、今回の参加者も存分にこの芸術を楽しめたと思われる。
 ベイビーシアターは入場できる人数が限られている点がネックとなっているため、今後はどのようにより多くの市民の皆さんに体験していただけるかを検討していきたい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 中学校であーと（南中学校）

日時 令和4年7月7日（木）

場所 長久手市立南中学校

事業の種類 普及・啓発事業 配信 なし

出演者 平光広太郎（ピアノ）、早川ふみ（サクソ）、出宮寛之（ベース）

公演内容 Strasbergst Denis,C jam blues,星メドレー（Star crossed lovers～So many stars～星に願いを）,Take the A train

入場者数 306 中学1年生9クラス

支出	委託費	100,000円
	計	100,000円

収入	文化庁助成金	金額未定
	計	0円

回収率 0.0%

アンケート結果

ほとんどがアドリブで会話のように本番で合わせていることがわかった。（生徒）
 今まで見てきた演奏はクラシックばかりだったので、ジャズはカッコイイなと感じた。（生徒）
 ピアノはクラシックを弾くイメージだったけどジャズも弾くことに驚いた。（生徒）
 よく聞くのはほぼJ-POPだけど、他のジャンルの音楽にも挑戦してみたいと思った。（生徒）
 スウィングで、リズムが急激に変わり、一気にジャズらしくなったのが驚いた。（生徒）
 とても素敵な曲ばかりで、家でもJAZZを調べて聴いてみたいと思った。（生徒）
 ジャズについて興味を持ち、検索したり、お互いに語り合ったりしていた。（教員）

担当者コメント

であーとは、文化の家に関わりのあるアーティストたちが、市内中学校でパフォーマンスを行う教育プログラム。南中学校公演には、東郷町出身で東海圏を中心に活躍する平光広太郎（ピアノ）率いるジャズトリオが出演。音楽を構成する要素やアドリブの醍醐味を解説しながら、プログラムを進めたため、初めてジャズを聴く生徒でも楽しめる構成となった。終了後にジャズについて調べ、音源を聴いてみた生徒が複数あったことから、子どもたちに新しい出会いの場を提供できたようだ。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 午後の佇み2022① 二胡とピアノの調べ

日時 令和4年7月13日（水） 14時00分開演

場所 長久手市文化の家 森のホール

事業の種類 鑑賞・体験事業 配信 なし

出演者 劉鉄鋼（二胡）、越智健二（ピアノ）

公演内容 川の流れるように、別れの朝、また君に恋してる、愛の讃歌、他

入場者数 242 席設定 351 入場率 68.2%

チケット料金 (前売) 1,000円
(当日) 1,000円

支 出	委託費	200,000円
	チラシ印刷費	15,055円
	計	215,055円

収 入	入場料	242,000円
	計	242,000円

回収率 112.5%

アンケート結果
 知っている曲も多く、知らない曲も耳に残るような選曲ばかりで良かった。二胡の演奏をたまにきいているけれど、今回は1番よかった。（市外、30代女性）
 とても二胡の素晴らしい音色が聴けた。選曲も良く自分史のエポックと曲が連動し、しみじみ聴きほれた。（市内、男性70代）
 愛知県内の大学で二胡の部活に所属している。今後の演奏での参考にしたい。音色も良かった。定期演奏会で人前で話すので、話し方も参考にしたい。（市外、20代女性）

担当者
コメント

平日の昼間に気軽に来られるコンサートシリーズとして開催している午後の佇みシリーズ。今回は、本シリーズのメインターゲット層である中高年齢層に向けて、青春時代に流行した歌謡曲の選曲をお願いした。その結果、二胡という楽器をよく知らない客層にも楽しんでいただける演奏会となった。今後も様々なジャンルで楽しんでいただけるシリーズにしたい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 長久手市職員・教員限定対話型鑑賞ワークショップ

日時 令和4年7月22日（金） 10時00分開演

場所 長久手市文化の家 展示室

事業の種類 鑑賞・体験事業 配信 なし

出演者 川北真紀子

公演内容 対話型鑑賞

入場者数 5 席設定 10 入場率 50.0%

チケット料金 無料

支 出	委託費	20,000円
	計	20,000円

収 入	入場料	0円
	計	0円

回収率 0.0%

アンケート結果
 頭の中で考えをまとめて、相手に伝わるように話すことが大切だと思った。（市内、30代女性）
 多様な感じ方を互いに話すことで知ることが出来、誰にも否定されず伝え合える心地良さ、仕事にも生かしていけると思った。（市内、50代女性）
 とても面白かった。職場の方の何人かは仕事の都合がつかず残念であった。（市外、60代女性）

担当者
コメント

集まった人で対話をしながら作品を鑑賞するプログラム。特別な知識は不要。絵を見て感じたこと、気づいたことを言葉にしてその場で互いにシェアすることで、発言力や他者の視点をくみ取る力が身につくといわれている。様々なお客様と接する職業に必要な講座だと思われ、市職員及び教員を対象に実施。講座を通じて、多様な考えがあること、どのようにくみ取ったら良いのかのヒント等を得られたと考えられる。参加者数が定員の半分にとどまった理由の一つとして、応募期間が短かったことから予定が合わなかったことが考えられる。今後は2か月前から募集するなど、募集期間を長くし、多くの参加者を得たい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	文化と地域デザイン講座 ～長久手市編～「新しいまつりをつくる ー東京高円寺阿波おどりー」		
日時	令和4年7月24日（日）	14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	リアルタイム・後日
出演者	富澤 武幸（NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会専務理事・事務局長）、松本 茂章（文化と地域デザイン研究所代表）		
公演内容	<p>観光・まちづくり・国際交流・福祉・教育・産業等の幅広い各分野との横断的な文化芸術の施策を紹介するとともに、専門家や先進地である自治体からゲストを招く講座シリーズ。</p> <p>テーマ：新しいまつりをつくる ー東京高円寺阿波おどりー</p> <p>ゲスト：富澤 武幸（NPO法人東京高円寺阿波おどり振興協会専務理事・事務局長）</p>		
入場者数	22	席設定 80	入場率 27.5%
チケット料金	無料		
支出	委託費		100,000円
	計		100,000円
収入	入場料		0円
	（補助金）文化庁		50,000円
	計		50,000円
回収率	50.0%		

アンケート結果 どんなイベントでも様々なボランティアの支えが不可欠であり、それなしでは成り立たない、という感じた。(市内、70代男性)

良かった。入場者が少ないのが残念である。多くがオンライン?(市内、70代男性)

担当者コメント 徳島阿波踊りといえば日本で有数のお祭りの一つである。その阿波踊りが東京で開催され、65年もの歴史を重ねてこれたのは、地元住民の熱い思いと、それを支えるボランティアや地域社会があったからとわかった。

なお、昨年度から日時を見直し、開催曜日を平日から休日に、開始時間も早めた結果、来場者もオンライン参加者も激減してしまったため、日程や時間を精査したい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	kajiiの日用品楽器コンサート～食器は歌う～		
日時	令和4年7月29日（金）	14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 森のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	kajii創、クマーマ		
公演内容	ハツタイケン（熊谷将）、トルコ行進曲（Wolfgang Amadeus Mozart）、Jupiter（Gustav Holst）、流星群（熊谷将）、Under The Sea（Alan Menken）、A Whole New World（Alan Menken）、Let It Go（Robert Lopez）、小さな世界（Robert Bernard Sherman）、ミッキーマウスマーチ（Jimmie Dodd）、ハイホー（Frank Churchill）		
入場者数	259	席設定 250	入場率 103.6%
チケット料金	（前売）フレンズ会員・一般1,500円、小・中学生500円、未就学児無料 （当日）フレンズ会員・一般1,500円、小・中学生500円、未就学児無料		
支出	委託費	279,240円	
	チラシ印刷費	23,280円	
	計	302,520円	
収入	入場料	193,000円	
	計	193,000円	
回収率			63.8%
アンケート結果	<p>一緒に演奏(バネ缶)できて、楽しかった。子供たちの目がキラキラ輝いていた。（市外、30代女性）</p> <p>お皿（おわん）などで演奏していたのが、すごいきれいな音でおもしろかった。（市内、10代男性）</p> <p>最高。これぞエンターテイメント。これからもがんばってほしい。（市外、50代女性）</p>		
担当者コメント	<p>ジョイントフェスティバル協議会との共同主催の音楽公演。公演当日は満席。kajiiの人気の高さが伺えた。音楽を聴かせるだけでなく、観客参加型の音楽もあり、アンケートからもとても楽しんでいた様子が伺える。会場内の机敷席の子どもたちも楽しんでいたが、手すりにぶら下がったりするなど、大変危険な行動をする子たちもいた。楽しんでもらうことはもちろん大切だが、子ども達が危険な行為を行わないような工夫が必要だと感じ、今後対策を検討しながら実施していきたいと考えている。</p>		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	劇団B級遊撃隊 第60回本公演 らんぷ		
日 時	①令和4年7月29日（金） ②令和4年7月30日（土） ③令和4年7月30日（土） ④令和4年7月31日（日）		①19時00分 開演 ②14時00分 開演 ③18時00分 開演 ④14時00分 開演
場 所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	なし
出演者	劇団B級遊撃隊 鬼頭卓見、山口未知、佃典彦、まどか園太夫、大脇ぼんだ、三井田明日香、神谷尚吾		
公演内容	らんぷ		
入場者数	390	席設定 196	入場率 48.8%
チケット料金	(前売) フレンズ会員 3,200円、一般 3,500円、U-25 3,000円 (当日) フレンズ会員 3,500円、一般 4,000円、U-25 3,000円		
支 出	提携事業のため支出なし 計 0円		
収 入	提携事業のため収入なし 計 0円		
回 収 率			
アンケート結果	<p>生の舞台のすごさと、楽しさと、面白い台本とに生きる力をもらった。（市外、50代女性）</p> <p>言葉にできないが、ものすごく今の私に響いた。（市内、50代女性）</p> <p>南吉の作品をからめた作品だったため、とても親近感を持って見れた。（市外、20代男性）</p>		
担当者コメント	<p>コロナ禍以降の劇団B級遊撃隊による本公演は、今回が初めてであり、待望の公演であった。原作を新美南吉の「おじいさんのらんぷ」としつつも、佃典彦氏による不条理劇として仕立てられており、非常に見応えのある作品となっていた。戯曲の内容、演出ともに来場者からの評価も高く、本格的な演劇公演を待ち望んでいた層からの期待に応えた形となった。集客が少し伸び悩んだところは残念であったが、今回は提携事業だったため、劇団側とももっと密に連携がとれるとよかった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	眠る美術博覧会		
日時	令和4年7月30日(土)から8月14日(日)まで	午前10時から午後5時まで	
場所	長久手市文化の家 展示室		
事業の種類	市民参画事業	配信	なし
出演者	一般市民から公募した、所有する芸術作品15点		
公演内容	市民が様々な場面で購入した美術作品を、購入したエピソードを添えて作品を募集し、文化の家で展示する。		
入場者数	551		
チケット料金	無料		
支出	作品搬入・展示補助		20,000円
	展示物案内管理		123,799円
	計		143,799円
収入	入場料		0円
	計		0円
回収率	0.0%		

アンケート結果

とても素晴らしい企画だ。作家と所有者とのストーリーを知りながら作品を見るのは、ただ作品を見るよりもかなり深みを感じた。(県内、40代男性)

キャプションに書いてある内容がとても個性的で面白かった。作品とエピソードで2度楽しめた。(県外、20代女性)

皆さんそれぞれのエピソードがありそれを読んでから絵を見ると、何もなく絵を見るのとは全く違って伝わってくるものがあった。(市内、50代男性)

担当者コメント

芸術作品を生活の中に取り入れるきっかけを知り、来場者自らが芸術作品を購入することに繋がることで、市民の文化に対する質の向上を目的に初開催した。一般市民が所有する芸術作品を募集し、15点が集まった。購入したエピソードを読んでもらうという、企画自体がとても好評で、次回開催を希望する声も多かった。作品募集や広報に苦労したことと、高額作品の盗難等を心配する声もあったため、価格に囚われないストーリー性が重要であることを、もっと伝えたかった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名 「夜の実験室～ヴァイオリンとヴィオラの夏の宵」

日時 令和4年8月2日（火） 19時00分開演

場所 長久手市文化の家 情報ラウンジ

事業の種類 普及・啓発事業 配信 なし

出演者 平光真弥（ヴァイオリン）、二川理嘉（ヴァイオリン）、新谷歌（ヴィオラ）

公演内容 ミニアチュア Op.75a, B149よりI.カヴァティーナ（ドヴォルザーク）、6つの性格的二重奏曲「スペインのアリア」Op.113よりII. Moderato. Tempo di marcia（ベリオ）、パッサカリア（ヘンデル＝ハルヴォルセン）、三重奏曲ハ長調Op.74, B148（ドヴォルザーク）、テルツェット第1番第3楽章（フックス）※アンコール

入場者数 41 席設定 50 入場率 82.0%

支出		委託費	50,000円
		計	50,000円

収入		入場料	0円
		計	0円

回収率 0.0%

アンケート結果 平日の仕事帰りに立ち寄れる手軽さがとても良い。（音楽に詳しくなく、曲も知らないが、帰りに寄るなら足を運べる、というハードルの低さ。）（市外、40代女性）
三重奏でもオーケストラに負けない迫力だった。ヴィオラがかっこよかった。（市内、30代女性）
引き込まれる熱量ある演奏であつという間だった。（市内、40代女性）

担当者コメント パブリックスペース活用事業として「夜の実験室」企画を2021年度に引き続き開催した。本企画では、お客様と奏者が一体となって、音楽の新しい可能性を発見していくコンセプトとなっている。今回の実験テーマは「チェロのいない弦楽トリオ」。ヴァイオリン2本、ヴィオラ1本による珍しい形態の弦楽三重奏で公演を行った。三重奏の他に、ヴァイオリン2本のみ、ヴァイオリンとヴィオラの2本での演奏も行い、響きの違いを体感した。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	劇団ラ・バラッカ公演 ファミリエ (Famirie) -家族-		
日時	令和4年8月7日 (日)	①11時00分②14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	劇団ラ・バラッカ アンドレア・ブゼッティ ロレンツォ・モンティ		
公演内容	ファミリエ (Famirie) -家族-		
入場者数	132	席設定	124 入場率 51.6%
チケット料金	(前売) フレンズ会員・一般2,000円、2歳～中学生500円、2歳未満入場不可 (当日) フレンズ会員・一般2,000円、2歳～中学生500円、2歳未満入場不可		
支出		委託費	660,000円
		チラシ印刷費	26,238円
		計	686,238円
収入		入場料	176,500円
		計	176,500円
回収率	25.7%		

最後のQAで、大人も子どもも一緒に舞台を観て、問いをたくさん探すというのが心に残りました。
 (市内、40代女性)

アンケート結果 多様性を重んじていてよかった。(市内、10代男性)

男の人が言葉をしゃべらなくても感情が伝わって良かった。初めて何もしゃべらない劇を観ることができてよかった。(市内、10代女性)

担当者コメント

ジョイントフェスティバル協議会等との共同主催の海外招聘作品公演。感染症の影響が減少し、徐々に渡航制限が緩和されてきた昨今、協議会にとって2年ぶりとなる海外招聘公演を試みた。今回の作品は言葉のない作品(ノンバーバル作品)であり、演者の細やかな表情や動きだけでその人の状況や感情を読み取る演劇。幼児向け作品だが、実は「家族の幸せとはなにか」を感じ取ってもらいたいというメッセージがこもっており、大人にとっても、様々な想像力をかき立てられる内容になっていたのではと考えられる。幼児対象の公演は、午後にお昼寝をする関係上、午後の入場率が特に悪かった。市内だけでなく、市外にもっと広報するなどして、入場率アップにつなげたい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	岬のマヨイガ		
日時	令和4年8月11日（木）	①10時00分②14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	市民参画事業	配信	なし
出演者	芦田愛菜（ユイ）、大竹しのぶ（キワさん）、カップ（サンドイッチマン）ほか		
公演内容	岬のマヨイガ		
入場者数	122	席設定	80 入場率 76.3%
チケット料金	（前売）500円 （当日）500円		
支出	委託費	165,880円	
	チラシ印刷費	11,592円	
	計	177,472円	
収入	入場料	80,000円	
	計	80,000円	
回収率	45.1%		


アンケート結果 とても心に響く映画だった。観たかったので有難かった。（市外、50代女性）
 子供づれでこれる、とてもよい取り組みだと思う。（市外、50代女性）
 コロナのこともあり観賞に迷いましたが観にきてほんとうによかった。（市内、50代女性）

担当者
コメント

シネマ倶楽部が、夏休みに親子で楽しめるようにと選定したアニメ映画で、光のホールでの映画鑑賞会としては、2年半ぶりに席設定を満席（80席）にした。子どもも楽しめる作品だが、妖怪が出るなど小さい子には少々怖いという感想があった。しかし、感動した！心が温かくなったなど、概ね好評だった。今後は大雑把にキッズとうたわず、年齢も熟慮したうえで、作品を選定していきたい。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	ホール見学SHOW		
日時	令和4年8月17日（水）	14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 森のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	ブラクトミー、魔界帝王デスカイザー、ザンゲ、ドドス、モギーネ 文化の家創造スタッフ（小田智之、弓立翔哉、大脇ぱんだ）		
公演内容	文化の家オフィシャルYouTubeチャンネルに登場する魔界からやってきたキャラクター「魔界補佐官ブラクトミー」と演劇系創造スタッフの大脇ぱんだが掛け合いによる進行で、森のホールの歴史や舞台機構を案内していく。後半は、舞台演出実演を兼ねた、魔界を冒険するストーリー仕立てのショート演劇を行った。音楽系創造スタッフの弓立翔哉（パーカッション）と小田智之（作曲・ピアノ）も登場し、随所に演奏を入れながら、音楽も楽しめる公演内容。		
入場者数	191	席設定	200 入場率 93.6%
チケット料金	無料		
支出	委託費		0円
	計		0円
収入	入場料		0円
	計		0円
回収率			
アンケート結果	娘(小1)は年中からの2年半、コロナ禍ということで人混みを避け、映画館ですらこの春休みまで行ったことがなかったが、広い舞台で劇を観ることができてうれしかった。(市外、40代女性) 早くコロナが落ち着いて、舞台裏を見られる様になりたい。キャラクターが手作り!!とは本当に感動した。ブラクトミーにさわりたい(市内、40代女性) 椅子がひっくりかえってすごかった。(市内、10代男性)		
担当者コメント	子どもが楽しむことができるように、考えて作られた長久手市文化の家のオリジナルイベントで、今回で3回目の公演になる。はじめて森のホールに来た子どもも多く、劇場体験のきっかけとなるイベントとなり、舞台鑑賞や芸術に触れる気軽な機会とすることができた。生演奏とオリジナルストーリーで、毎回好評を得ているが、毎年この公演を観に来てくれる方もいるので、飽きない内容にしていきたい。		

長久手市文化の家 自主事業報告書


公演名	ながくて てつがくカフェ		
日時	令和4年8月20日（土）	14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 美術室		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	近藤薫（東京大学先端科学技術研究センター特任教授／東京フィルハーモニー交響楽団コンサートマスター）		
公演内容	「あるく」をテーマに、グループごとに分かれた参加者同士で自由に話を深める。		
入場者数	24	席設定	25 入場率 96.0%
チケット料金	無料		
支出		委託費	50,000円
		計	50,000円
収入		入場料	0円
		計	0円
回収率	0.0%		
アンケート結果	<p>とても斬新な企画で面白かった。（市内、70代男性）</p> <p>年代ごとの話がきけて共感しえたり、新たな思考が生まれたりよかった。（市外、40代女性）</p> <p>普段なかなか考えられないことを深く楽しく考えられて、楽しい時間だった。（市内、40代男性）</p>		
担当者コメント	<p>何か答えを出すのではなく、一つのテーマについて深く考えることをねらいとした企画。参加者は特に何も用意することなく、テーマについて話し合うという試みだったが、深く考える機会になったと好評を得た。近藤薫氏による講演とヴァイオリン演奏もあり、参加者の満足度の高い充実した時間となった。今回美術室で約25人という人数で行ったが、コロナ禍において少し密になってしまった部分もあり、会場についてもは改善が必要であった。</p>		




長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	長久手市文化の家アートスクール短期講座 「対話型鑑賞ワークショップ」		
日時	令和4年8月21日（日）	10時00分開演	
場所	長久手市文化の家 講義室1		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	川北真紀子、藤島えり子		
公演内容	対話型鑑賞		
入場者数	9	席設定 10	入場率 90.0%
チケット料金	(前売) 一般：1,000 (当日) 一般：1,000		
支出		委託費	20,000円
		印刷製本費	16,928円
		計	36,928円
収入		入場料	9,000円
		計	9,000円
回収率	24.4%		
アンケート結果	タイプの違う4種類の絵により、色んなインスピレーションが浮かび、違う意見に更に考える力がつくようで楽しかった。最後の絵はもっともっと話し合いたかった。（市内、50代女性） こうしたワークショップに初めて参加させていただき、参加者の数だけ見方がある面白さを感じた。実際の作品を見ながらできるとさらに良かったな、と思った。（市外、30代男性） コロナ禍で会話の少ない日常だが、久しぶりに皆さんの声を聞いた。（市外、70代男性）		
担当者コメント	集まった人で対話をしながら作品を鑑賞するプログラム。特別な知識は不要。絵を見て感じたこと、気づいたことを言葉にしてその場で互いにシェアすることで、発言力や他者の視点をくみ取る力が身につくといわれている。今回はディスプレイに絵画等のアート作品を映し実施。参加者の多くは、発言力の能力を高める等の目的よりも、コロナ禍で失われた他人とのコミュニケーションを求めているように思えた。「アート」という材料をもとにコミュニケーションが生まれ、とても和やかに実施できた。今後は、アート作品を借用するなどして、文化の家でも実物を使用した対話型鑑賞ができるよう、環境を整えたい。		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	MARIMBA NAIGHT（前夜祭）		
日時	令和4年8月26日（金）	19時00分開演	
場所	長久手市文化の家 森のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	なし
出演者	国際マリンバフェス出演者、日本マリンバ協会愛知支部会員、スカルサクラ（ガムランジェゴッググループ）名古屋音楽大学学生		
公演内容	さくら（日本古謡）、火華（朝吹英一）、Bamboo Song（R.ガヤルド）、Goldberg-Variationen（J.S.バッハ）、Sculpture in wood（パヴァッサー）、トゥルントウガン、マカプン、cafe jegog（R.ガヤルド）、The weve impression（安倍圭子）、Borelo（ラベル）		
入場者数	207	席設定 500	入場率 40.9%
チケット料金	（前売）一般、フレンズ会員 2,000円、学生1,000円 （当日）一般、フレンズ会員 2,000円、学生1,000円		
支出	提携事業のため支出なし 計 0円		
収入	提携事業のため収入なし 計 0円		
回収率			
アンケート結果	<p>演奏家によって多彩なマリンバをきくことができ、プログラムも古典から現代のものまで色々なテイストでおもしろかった。海外のアーティストの演奏に公共でふれられること、地域のアーティストとの交流があること、素晴らしい企画だと感じた。（市外、30代女性）</p> <p>近くに住んでいて何となく入場したが、とても良かった。ジュゴックははじめて聞く言葉だったが、迫力がすごかった。（市内、40代男性）</p> <p>とてもホールがきれいだった。外国のマリンバ奏者たちの演奏がきけてうれしかった。Jegogに勢いを感じた。他の民族楽器に興味を持った。（市外、10代女性）</p>		
担当者コメント	<p>翌日のメインコンサートに繋げるべく開催した。メインコンサートに比べて比較的聴きやすい選曲にし、またマリンバだけでなく、バリ島の民族楽器ガムランジェゴッグやパーカッションなどを加えて行ったため、お客様には楽しんで観覧していただけた。メインコンサートとの違いがわかりにくいためか集客には今一つ厳しい結果となった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	国際マリンバフェスティバルメインコンサート		
日時	令和4年8月27日（土）	18時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 森のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	Katarzyna Mycka、Conrado Moya、Ricardo Gallardo、Svet Stoyanov ※Svet Stoyanov氏は、諸事情により来日できず、出演キャンセル		
公演内容	ゴールドベルグ変奏曲（J.S.バッハ）、Macondo（ジョン・ポール・ジョーンズ）、 Saeta y Bulerias（リカルド・ガヤルド）、KYOTO（ジョン・ササス）、シャコンヌ （J.S.バッハ）、In the Fire of Conflict（クリストス・ハツイス）、夜の訪れ（エクトル・ インファンソン）		
入場者数	244	席設定	500
チケット料金	（前売）フレンズ会員2,500円、一般3,000円、学生1,500円 （当日）フレンズ会員2,500円、一般3,000円、学生1,500円		
支出	運営補助委託料		250,000円
	報償費（出演料）		1,150,000円
	印刷費（チラシ2,000部、プログラム700部）		73,192円
	著作権使用料		6,050円
	計		1,479,242円
収入	入場料		630,500円
	（補助金）文化庁助成金		金額未定
	計		630,500円
回収率			42.6%
アンケート結果	<p>とても濃い2時間だった。マリンバの魅力が又1つ増えた。（市外、70代女性）</p> <p>舞うように踊るように弾いていたのが印象的だった。（市内、70代女性）</p> <p>クラシックも現代アートのような音楽もあり、興味深かった。（市内、30代女性）</p> <p>記載されている曲順とプログラム順が異なっていてわかりづらい。（県外、30代男性、他複数）</p>		
担当者コメント	<p>国際的なマリンバの祭典を日本国内では初めて開催した。カタジーナ・ミチカ氏をはじめとする世界的なマリンバ奏者4人が長久手に集結する運びとなった。そのうち、スヴェット・ストヤノフ氏が諸事情により来日できなくなり、出演キャンセルとなってしまった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	アート&コミュニケーション 先の見えない時代のサバイバル術		
日時	令和4年8月27日（土）	14時00分開演	
場所	長久手市文化の家 光のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	なし
出演者	福のり子（講師）		
公演内容	対話型鑑賞の第一人者 福のり子氏による特別講演会		
入場者数	65	席設定	80 入場率 79.3%
チケット料金	（前売）フレンズ会員・一般2,000円、学生1,000円 （当日）フレンズ会員・一般2,000円、学生1,000円		
支出	委託費	180,000円	
	印刷製本費	13,140円	
	計	193,140円	
収入	入場料	118,000円	
	計	118,000円	
回収率	61.1%		

アンケート結果
 とても良い経験になった。2,000円では買えない授業を受けられた。（市外、40代男性）
 他者の考えを受け入れることは、生き方そのものにも通じることだと思った。（市外、70代女性）
 対話型鑑賞が生きる力にとっても必要なもの、想像力の大切さを感じた。（市内、40代女性）

担当者
コメント

対話型鑑賞を日本に紹介した第一人者である福のり子氏を招いて、対話型鑑賞の本質に迫る講義をしていただいた。なぜ多様性が大切なのか、楽しく生きるにはどうしたらいいのかなど、人生観にまでつながるような学びがあり、まさにアートを通じて生き残るために必要なサバイバル術を伝える内容であった。参加者は、対話型鑑賞の経験があるが、深くまで知らないという人が多く、福氏の講演会は東海圏ではあまり開催実績もなかったことから、今回開催した意義があったといえる。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	国際マリンバフェスティバル出演者によるマスタークラス		
日時	令和4年8月28日（日）		14時00分開演
場所	森のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	なし
出演者	見延詩貴、河野翔磨、松下真奈、前川礼奈、亀山佳音、西村雅、殖田真由、渡邊桃佳		
公演内容	Merlin1,2/A.thomas、Luminosity/T.Golinski、Four Rotations for Marimba/E.sammut、Departures/E.sejourne、Sculpture3/R.pawassar		
入場者数	30		
チケット料金	（前売）一般1,000円、フレンズ会員500円 （当日）一般1,000円、フレンズ会員500円		
支出			提携事業のため支出なし
	計		0円
収入			提携事業のため収入なし
	計		0円
回収率			


アンケート結果 アンケート実施せず

担当者
コメント

マスタークラスの受講生は、主に中部地区で演奏活動を行っているプレイヤーで、今回は5組受講した。楽曲分析やその奏法など、かなり細かい部分まで指導が入った。一度に3人のアーティストから助言をもらえる機会はめったにないと、受講生も聴講していた方々も満足なマスタークラスとなった。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	長久手市文化の家×愛知県立芸術大学 ART SHOP		
日時	令和4年9月2日（金）～9月4日（日）		
場所	文化の家 2F パブリックスペース		
事業の種類	アートのまち創造事業	配信	なし
出演者	「愛知県立芸術大学の美術部：19名・音楽学部：1名（出展・販売）」「橋寛憲（出展・販売・WS）」「高野葵（出展・販売・WS）」「sabokan (WS)」		
公演内容	愛知県立芸術大学の協力により、今回が初めての試み。教授陣推薦の学生や卒業生達の作品を販売する他、WSも開催。作品を作り、価格を決め、プロと並んで作品を販売する。未来のプロのアーティストのもう一つの学びの場として企画。		
入場者数	1000		
チケット料金	無料		
支出	委託費	165,000円	
	計	165,000円	
収入	入場料	0円	
	WS料14名分	14,000円	
	WS料10名分	7,000円	
	計	21,000円	
回収率	12.7%		
アンケート結果	<p>お客さまと直に接することで、普段聞くことができない新鮮な意見を得ることが出来た。（出展学生）</p> <p>梱包の仕方・価格設定が難しかったが、学びとなった。（出展学生）</p> <p>ころころオブジェを作ったり、デジタルの似顔絵も描いてもらって、すごく楽しかった。またやっていただきたい。（来場のお客様、市内女性）</p>		
担当者コメント	<p>国際芸術祭との相乗効果で、おおよそ1,000人が来場があり、3日間で48万4,100円の売り上げとなった（売り上げは100%作者に還元）。アーティストの創造活動が市民の暮らしの質を向上させるとともに、市民の芸術に対する関心や理解がアーティストの活動を支えるなど互いの交流が相乗効果を発揮する場となるよう期待する。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書


公演名	音楽講座シリーズ① ゲーム音楽		
日時	令和4年9月2日（金）	18時30分 開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	普及・啓発事業	配信	リアルタイム・後日
出演者	小室敬幸（講師）、小田智之（創造スタッフ・ピアノ）、弓立翔哉（創造スタッフ・パーカッション）		
公演内容	すぎやまこういち関係の曲などを解説。 創造スタッフによる演奏付き。		
入場者数	70	席設定	250 入場率 27.3%
チケット料金	(前売) 500円 (当日) 500円		
支出	委託費	60,000円	
	印刷製本費	13,621円	
	音楽著作権料	2,750円	
	計	76,371円	
収入	入場料	39,500円	
	計	39,500円	
回収率	51.7%		

アンケート結果 すぎやまこういちがいろいろな経歴を経て、DQにたどり着いたことがわかった。（市内、40代男性）
あまり知らない分野だからこそ、聴きに來れてよかった。（市内、20代女性）
今後の音楽講座のシリーズに期待する。（市外、80代男性）


担当者コメント ゲーム音楽を扱う講座は公共施設では類がなく、挑戦的な企画だった。若者世代を中心に爆発的な人気がありながら、これまであまり深く知られていなかったゲーム音楽の背景に迫る講座となった。來場者からも新しい発見になったとの声をいただき、今まで聴いたことのない音楽を聴くきっかけが作れたと思う。これまでの文化の家の客層とは異なるターゲット層をねらったため、集客が伸び悩んだのは残念であったが、普段は來ないような20代や30代の來場者もあり、ねらいがうまくいったといえるだろう。



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	国際芸術祭「あいち2022」連携事業「あいち2022」ポップ・アップ！		
日時	令和4年9月2日(金)から9月4日(日)まで		
場所	長久手市文化の家 展示室、ギャラリー、多目的室		
事業の種類	アートのまち創造事業	配信	なし
出演者	遠藤薫、小杉大介、黒田大スケ、升山和明、尾花賢一、カズ・オオシロ、塩田千春、和合亮一、渡辺篤（アイムヒアプロジェクト）、イー・イラン、横野明日香		
公演内容	<p>「寺内信一ドライブねこまんま」「寺内信一のためのプラクティス」「ギャラリートラック常滑」（黒田大スケ）、「《SILVER FISH》長編詩「詩の礫 2022」より」（和合亮一）、「いつかくる日」「チャプター1」（尾花賢一）、「somewhere」「ダム建設」（横野明日香）、「火炎瓶／コーラ／沖縄／1945」（遠藤薫）、「無題、H鋼（2パーツ）」「サン・スタジオリードアンプII」（カズ・オオシロ）、「修復のモニュメント「病院」」（渡辺篤（アイムヒアプロジェクト））、「パンキス」（イー・イラン）、「SHIMIZUYA WHITE」「SHIMIZUYA PAPER CRAFT」（升山和明）、「Cell」（塩田千春）、「異なる力点」（小杉大介）</p>		
入場者数	922		
チケット料金	無料		
支出	展示物管理案内業務		90,136円
	広報折込手数料		85,833円
	計		175,969円
収入	入場料		0円
	計		0円
回収率	0.0%		
アンケート結果	<p>”アート”を身近に感じることができた。（市外、20代女性） 長久手文化の家のギャラリーと、展示内容の相性が良かった。（市内、50代男性） 長久手に来てもらえて本当に嬉しい。2階のアートショップやワークショップもすばらしかった。（市内、20代女性）</p>		
担当者コメント	<p>愛知県内の芸術祭会場以外の市町村で現代美術の振興を図り、多様な価値観や世界の見方をしってもらうため、国際芸術祭あいち組織委員会と長久手市が共催で行った。世界的に有名なアーティストの作品が展示されたことにより、非常に多くの来場者があった。また、ART SHOPを同時開催したことにより、館内全体がアートにあふれる3日間となった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	長久手市文化の家アートスクール短期講座 「対話型鑑賞ワークショップ」@あいち国際芸術祭		
日時	令和4年9月3日（土）	11時00分開演	
場所	あいち国際芸術祭「あいち2022」ポップ・アップ！長久手市文化の家会場		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	川北真紀子		
公演内容	対話型鑑賞		
入場者数	14	席設定	10
		入場率	140.0%
チケット料金	（前売）一般：1,000 （当日）一般：1,000		
支出		委託費	20,000円
		計	20,000円
収入		入場料	14,000円
		計	14,000円
回収率			70.0%
アンケート結果	他の人の意見から新しい見方をすることができて、たのしかった。（市内、40代女性） 活発な対話ができよかった。（市外、男性50代） 1人で美術館に行くことが多いので、いろいろな意見を聞くことができてたのしかった。1つ気になったのが、作品の指さしをする方が多く、作品に触れてしまいそうで心配になった。（市外、40代女性）		
担当者コメント	集まった人で対話をしながら作品を鑑賞するプログラム。特別な知識は不要。絵を見て感じたこと、気づいたことを言葉にしてその場で互いにシェアすることで、発言力や他者の視点をくみ取る力が身につくといわれている。今回は3年に一回の祭典、あいち国際芸術祭の会場を舞台に開催。芸術祭のキュレータが厳選した有名な作家による作品を使用する贅沢な内容となった。独特な作品が多かったため、様々な感想が飛び交い参加者同士、驚きや発見が多かったように思えた。アンケートにもあるとおり、自由に鑑賞して良いワークショップなのだが、鑑賞するときの最低限のマナーについては事前に案内すべきだと思われた。		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	ながくて てつがくカフェ テーマ「心がうごくってどういうこと？」		
日時	令和4年9月10日（土）	14時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 美術室		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	神崎亮平、中邑賢龍 (東京大学先端科学技術研究センター)		
公演内容	「心が動くってどういうこと？」をテーマに、グループごとに分かれた参加者同士で自由に話を深める。		
入場者数	21	席設定	25 入場率 84.0%
チケット料金	無料		
支出		委託費	111,000円
		計	111,000円
収入		入場料	0円
		計	0円
回収率	0.0%		
アンケート結果	<p>初めて会った方たちとの交流が新たな考え方を知る機会にもなりました。(市外、40代女性)</p> <p>名古屋市に住んでいるが、こういう企画はあまりない。長久手市民がうらやましい(市外、30代女性)</p> <p>全く共感できる話ばかりだった。是非継続を。(市内、70代男性)</p>		
担当者コメント	<p>8月20日に行った「ながくててつがくカフェ」の第2弾。今回は昆虫が専門の神崎亮平先生、教育が専門の中邑賢龍先生の2人をゲストに招いた。前回から続けての参加者もあり、それぞれのグループで深く思考する時間が得られていた。今回はゲストが2人いたことから、盛り上がってきたところで時間がきてしまい、少し時間設定が短かったように思われた。深く対話するには時間が必要であるため、時間配分をどうするかは今後の課題である。</p>		




長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	2022ジョイントフェスティバル 冒険舎 となりのためぎ		
日時	令和4年9月18日（日）	14時00分 開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	内藤美佐子、どうけいちこ、youu-ji		
公演内容	となりのためぎ		
入場者数	94	席設定 116	入場率 78.3%
チケット料金	(前売) 一般：1,500円 小・中学生：500円 未就学児：無料 (当日) 一般：1,500円 小・中学生：500円 未就学児：無料		
支出	委託費	153,230円	
	印刷製本費	25,717円	
	計	178,947円	
収入	入場料	84,000円	
	計	84,000円	
回収率	46.9%		
アンケート結果	息子（3歳）が大変面白かったと言っていた。本も買って読んでみようと思った。（市外、30代男性） 「もう1回みたい。」と娘が言っていた。笑いあり感動ありで楽しかった。ためぎとうさぎが「自分と妹みたい」だと言っており、良い教訓になった。深い話であった。（市外、30代女性） 最後ためぎとうさぎが仲良くなり、よかった。（市内、9歳以下女性）		
担当者コメント	ジョイントフェスティバル協議会等との共同主催の演劇公演。子ども向け作品ではあるが、ためぎとうさぎを通じ、「嫌いな人」とどのように付き合っていくかを考えさせられる内容となっていた。コミカルな動きなどで子どもたちが楽しめたのはもちろん、大人も楽しみながら、様々な人との付き合い方を見つめ直すきっかけになったと考えられる。広報面では、宣伝材料（練習風景写真等）が少なく、SNS等を利用しても同じような内容を掲載するような形になり、真新しいものがなかった。団体から宣伝材料をできるだけ出してもらえよう働きかけ、積極的に広報をしていきたい。		



長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	Music Weekend 2022 室内楽の楽しみ		
日時	令和4年9月25日（日）	16時00分開演	
場所	長久手市文化の家 風のホール		
事業の種類	鑑賞・体験事業（提携）	配信	後日配信のみ
出演者	<p>市原風太（Pf.）、稲垣英里奈（Vn.）、園部真秀（Vla.）、稲垣悠佑（Vc.）、菅原舞永（Pf.）、尾上一葉（Fl.）、井上慎介（Ob.）、庄司直央（Cl.）、小林璃実（Vn.）、溝口琴音（Vc.）、清水愛理（Pf.）、松尾悠生（A.Sax.）、大橋音子（B.Sax.）、山本奈緒（Ob.）、前田雄輝（Vn.）、小山日向美（Vla.）、坂田晃子（Vc.）、神野拓斗（Pf.）、鎌田鴻太郎（Vn.）、宮脇彩永（Pf.）、滑川敬一（Cl.）、国崎祐未（Ob.）、圖子怜央奈（Cl.）、豊倉雅大（Vn.）、高東典央（Vla.）、金関あんず（Cb.）</p>		
公演内容	<p>ピアノ四重奏曲 変ホ長調 作品47より第1,4楽章、フルート、オーボエ、クラリネット、ピアノのための四重奏曲より第1,2,4楽章、ピアノ三重奏曲 ト長調 作品15より第1楽章、ピアノ三重奏曲 ト短調 作品32より第1,3楽章、クラリネット、チェロ、ピアノのための三重奏曲、5重奏曲 ト短調 作品39より第1,5楽章</p>		
入場者数	157		
チケット料金	<p>（前売）一般1,000円、学生500円 （当日）一般1,000円、学生500円</p>		
支出			提携事業のため支出なし
	計		0円
収入			提携事業のため収入なし
	計		0円
回収率			
アンケート結果	<p>小さめのホールで真近な演奏は至福の時間だった。（無回答、60代男性） 演奏前に短く挨拶してもらおうと、より身近に感じると思う。（無回答、無） 若い皆さんの元気な演奏から元気を頂いた。（無回答、70代女性）</p>		
担当者コメント	<p>毎年行われる学内オーディションによって選ばれた室内楽グループによる演奏会。3回のミーティングを出演者と文化の家事務局とで開催し、劇場運営方法などを学んでいる。出演者自身のプレスリリースなどが、できなかったのが残念だったが、演奏会は、メジャーな曲目がないなか、常連のお客様もついているコンサートとあって、満席に近い入りであった。</p>		

長久手市文化の家 自主事業報告書

公演名	長久手市文化の家アートスクール短期講座 「対話型鑑賞ワークショップ」@名都美術館		
日時	令和4年9月25日（日）	17時00分 開演	
場所	名都美術館		
事業の種類	鑑賞・体験事業	配信	なし
出演者	藤島えり子		
公演内容	対話型鑑賞		
入場者数	14	席設定	10 入場率 140.0%
チケット料金	(前売) 一般：1,000円 (当日) 一般：1,000円		
支出		委託費	20,000円
		計	20,000円
収入		入場料	14,000円
		計	14,000円
回収率	70.0%		

アンケート結果

参加者の皆さんのご意見になるほど思いながらも、やはり作者(画家)の意図とかを知りたい気持ちになった。鬼頭さんの解説ですっきりした。(市外、40代女性)

進行が良く、また、解説や皆様の意見もお聞きでき、楽しい時間であった。(市内、70代男性)

始まる30分前にじっくりと見れる時間があり、よかった。美術館で話し合いをしながらの鑑賞は、とても貴重な経験であった。"何かを話そう"と思いながら見るとじっくり見るし、なんとなく見ている時では気づけないことに気づけた。アウトプットは大事。(市内、40代女性)

担当者コメント

集まった人で対話をしながら作品を鑑賞するプログラム。特別な知識は不要。絵を見て感じたこと、気づいたことを言葉にしてその場で互いにシェアすることで、発言力や他者の視点をくみ取る力が身につくといわれている。今回は市内の名都美術館の特別展「伊東深水展」を舞台に開催。伊東深水の柔らかな表情の作品は、参加者の心を落ち着かせ、緩やかな対話を生み出していた。また、対話型鑑賞を行った作品ごとに名都美術館所属学芸員の鬼頭氏に深水の思いなどを含めた作品解説をお願いし、より深く作品を知っていただくことができた点は、大変評判がよかった。これからも、市内施設の特性を生かしながら実施する事業を企画していこうと考えている。

